

平成30年度 淀川中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一侧面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪市中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
3年	学校	101	78	61	61	41	65	2.9	4.4	5.4	20.4	5.8
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	97	52.3	45.3	54.6	56.8	52.6	17.0	5.9	13.0	6.8	5.2
	大阪市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9月4日	大阪府	—	53.0	49.5	58.9	58.0	58.5	16.0	4.5	10.0	7.3	3.6

3 大阪市中学校3年生統一テスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
3年	学校	95	62.1	58.7	56.1	57.0	58.4
10月4日	大阪市	—	60.2	58.8	59.2	57.1	60.7

【成果と課題】

全国学力学習状況調査では、平均正答率では国語ではAが全国平均を上回り、Bはほぼ同程度である。数学ではABとも5~6%下回っている。理科は約1%下回っている。また、平均無回答率についても数学Aでは2.1%、Bでは7.8%上回っている。

チャレンジテストでは全ての教科で大阪府平均を下回っている。特に社会、数学、英語で平均点で4点以上下回っている。統一テストでも数学、英語が大阪市平均を下回っている。

国語については新しい学力観に基づく、豊かな言語力や思考力、表現力などを重視した学習の実施による成果がみられるようになってきたと思われる。

一方全体的に数学と英語に課題がみられる。数学については従来の計算力や公式の応用などの学習だけではなく、問題解決に至る過程を重視した学習や論理的思考力を育成するための学習に努めるなど、生徒自らが進んで考えることを目的とした授業を実施することが求められる。

英語についてはC-NETとも連携した会話を重視した授業を行っているが、文の構造など基本的な知識の習得にも取り組んでいくことが必要である。

生徒質問紙の結果から理科については、実験や観察を取り入れた授業を取り入れており、生徒たちが意欲的に取り組んでいることが伺われる。

【今後に向けて】

科学的・論理的思考に弱さが見受けられる。生徒の興味関心を引き出しながら、なぜそうなるのかという疑問を解決させる授業を展開することが必要であると考えられる。知識の習得という基本的・基礎的な学習に加え、調べ学習や班別学習や討論を取り入れるなど、生徒同士や教師との対話を重視した授業を行うなど、従来の形式を見直し、生徒がより意欲的に取り組めるよう改善、工夫することが必要である。